山梨県支部だより

第13号
一般社団法人
表千家同門会 山梨県支部
〒400-0021 甲府市宮前町6-3
笠井　公巳 方
TEL 070-2902-2318

講演「お茶が教えてくれたこと」の様子

第十三回
茶の湯文化にふれる市民講座

甲府に熱中症アラートが発令された令和六年七月二十一日(日)、山梨県立文学館講堂にて、第十三回茶の湯文化にふれる市民講座が開催されました。エッセイストの森下典子氏を講師にお招きして、「お茶が教えてくれたこと」を演題に講演いただきました。

神奈川県在住の森下氏は、表千家教授の資格を取得され、お茶の稽古を続けておられます。著書『日日是好日』は、二〇〇二年に初版が発行され、二〇一八年に映画化されたこともあり、森下氏の講演を聴講しようと、客席には約三〇〇名の方々が参加されました。

石川副支部長の挨拶の後、講演は森下氏を中心に笠井事務長、内田幹事の鼎談(*ていだん)で行われました。講演の前後には呈茶もあり、また春光堂書店(甲府)による森下氏の著書の販売コーナーも設けられ大変盛況でした。

講演では本や映画の制作のエピソードがいくつも語られ、森下氏の飾らないまっ直ぐな言葉と表現力の豊かさ、お茶や人への深い思いが魅力でした。なかでも、『日日是好日』の映画化にあたってスタッフが誰も茶道を知らなかったこと、映画公開の一ヶ月前に、俳優の樹木希林さんが亡くなられたこと、樹木さんは全くお茶の経験がない状態から、あれだけの演技をされたことなどが印象的でした。

これまでお茶の映画は『利休』『利休にたずねよ』など、歴史物はありましたが、現代の稽古場を舞台にした映画は今回が初めてとのことで難

エッセイスト　森下典子氏

しさもあったそうです。

森下氏は〝仕事を続けることができたのはお茶があったから。沈んでいても稽古帰りには空を見上げて帰れる・・・(生きる姿勢を)迷わなくて済むようになった。この場所に座っていていいんだ、となれたのはお茶の稽古のおかげ〟と語られました。

＊鼎談・・・三人が向かい合って話をすること

向嶽寺宮本大峰管長筆「松風供一啜」

森下氏を囲んでの呈茶席

第六回 茶の湯文化にふれる体験学習

花菖蒲の咲き誇る県立文学館の茶室・素心菴にて、令和六年六月一日と十六日の二回、「茶道体験ワークショップ」が行われました。一般の方々にも広く茶の湯文化に触れてほしいと、今回は第一回目を「茶臼で抹茶を作ってみよう」と題し、甲府市丸の内で茶舗を営む山根園・飯嶋様を講師にお迎えして実施しました。幅広い世代の参加者の皆さんには、最初に映像で茶葉の栽培から抹茶ができあがるまでを鑑賞した後、講師と役員の指導のもと、碾茶(抹茶の原料となる茶葉)を実際に石臼で挽いていただきました。碾茶と挽き立ての抹茶を実際に見て、触れて、味わうことのできる体験は非常に好評でした。

茶臼の芯木は「梅」、そして挽き手は「松と竹」で出来ているという説明に、中国から渡ってきた茶臼にも日本人の心を込めてきた先達に思いを馳せるひとときとなりました。

そして二回目は、主客双方を実体験する「和菓子と抹茶でおもてなし」が行われました。前年度のワークショップ参加者から「抹茶の点て方をもっと知りたい」という声があったことから、今回は技術的な面も意識して体験していただきました。

初めて茶筅を振る方も大勢いる中、役員の指導のもと自分で点てた初めての抹茶は、とても美味しかったとのお声をいただきました。小学生や中学生のお子さんと参加された保護者の方々からは、子どもたちにとっても新しく興味深い体験になったと嬉しい感想を聞くことが出来ました。茶道の中に息づくおもてなしの心を年代問わず皆さんに感じていただけたことはこのワークショップの一つの成果と感じています。

第2回 客の作法も学ぶ参加者の皆さん

第1回 山根園様を交え、初めての茶臼体験

長野県・山梨県 教授者講習会

松本市・ホテルブエナビスタにおいて、本部から伊藤善夫宗匠、吉水輝忠先生をお迎えし長野県・山梨県教授者講習会が開催されました。

前日翌日はよく晴れ、気温も三〇度と暑さを心配していたところでしたが、当日令和六年六月十八日(火)は関東甲信は大雨。足元は大変でしたが、和服にはちょうど良い気温でした。

山梨からは十四名の受講者と五名の再受講者が参加、長野の受講者とあわせて五十余名の参加者でした。

今回の教本は「床の間、掛物、花入」、実技課目は「軸飾」「花所望」「濃茶」でした。

吉水先生によるお話では「今、お家元は米国カリフォルニアで献茶をされています。一昨年は利休生誕五〇〇年、栄西禅師が茶をもたらしたのがおよそ八〇〇年前。歴史や経緯を知ることがとても大切。・・・なかでも床の間が一番大事なこと。・・・」といったお話に始まり、一つひとつ丁寧なご説明をいただきました。その後全員に美濃紙が配られ、軸の当て紙の折り方のご指導もありました。

「軸飾」

伊藤宗匠のご指導による実技課目では、張りつめた雰囲気の中、軸飾りの問答の中で「何がどう大事なのか自分で考える。大事なことを省いてはアカン！」とのお言葉が印象的でした。掛物は久田宗也宗匠筆「歩々起清風」。間もなく巻き上げられましたが、席中だけでなく参加者の心にも清風が吹き抜けたことと思います。

呈茶席は季節の青梅の菓子で、少し遅れている入梅を思いつつ、おいしくいただきました。

恵林寺開山忌茶会

今までになく暑さの厳しい夏を過ごした令和六年九月三十日(月)、乾徳山恵林寺において開山忌法要が厳かに執り行われ、合わせて役員による開山忌茶会が催されました。献茶式のない年に行われるこの茶会ですが、境内は落ち着いた雰囲気に包まれ、参拝される人を温かく迎え入れようとしていました。

今回初めて立礼卓を設えた八衛門座敷の床には、普段は拝見することの出来ない開祖・夢窓国師筆の「彩鳳舞丹霄」のお軸が掛けられ、お席に入られた方の関心を引いていました。席中では住職古川老師が当日のお道具についてお話しされ、なかでも軸にまつわる逸話は大変興味深いもので、退席前に改めて熱心に見入る人の姿がありました。

十一時から始まった法要では禅僧の読経が厳かに響き渡り、恵林寺檀家総代の皆様をはじめ参列者に見守られる中、石川副支部長より一碗が捧げられました。

当日は秋色の空の下、参拝された方にも思いがけない出会いを喜んでいただき一服のお茶を共に楽しむ事ができたことは、何より嬉しく心が温まる一日でした。

開山忌法要(右上)、呈茶席(右下)、夢窓国師筆「彩鳳舞丹霄」

第二十三回 やまなし県民文化祭大茶会

令和六年十月十三日(日)ぴゅあ総合において、表千家流は内田幹事が釜をかけました。席主の内田幹事に感想をいただきました。

和やかな席の様子

床の即中斎宗匠筆の一行「漸漸出雲衢(ぜんぜんしゅつうんく)」は名月を詠んだ漢詩から。前句は「団団離海嶠」、月が海辺の山を離れ、おもむろに雲の路に出るという満月の昇るさまを表している。後句は「此世一輪満、清光何処無」。謡曲の狂女物「三井寺」にも謡われ、三井寺(園城寺)で女が鐘を撞く見せ場に発せられる語句。一行の五文字から清らかな鐘の音を聞き澄んだ月に人を偲ぶ心静かな夜の風情を感じて、日本の古典文化の奥深い世界を垣間見た優雅なひとときとなった。

(内田　護)

会記

三階和室

寄付掛物　源氏の絵　渡辺清筆
本席掛物　即中斎筆一行　漸漸出雲衢　共箱
花入　鶏冠壺　遼代
花　季のもの
香合　舟橋蒔絵　而妙斎書付　九代彦兵衛作
栗のいが染帛紗を敷いて　即中斎箱書付　与兵衛作
唐金朝鮮風炉　真形釜
風炉先　砂子透かし
水指　古瀬戸　捻貫　岡田宗叡識
茶器　秋野棗　即中斎書付
茶碗　刷毛目　鶏龍山
替　古雲鶴
替　俵型　松本萩
茶杓　惺斎作　銘面影　共筒共箱
韮山の竹をもって
建水　砂張
蓋置　竹　惺斎書付
千菓子器　鎌倉彫松竹梅　即中斎書付
千菓子　月世界　富山
茶　すはまの豆　三省堂製
猶有斎好　清友の白　柳桜園詰

即中斎宗匠筆「漸漸出雲衢」

資格者講習会及び 支部総会・一般講習会

「茶通箱」

令和六年十月十九日(土)、山梨県立文学館にて令和六年度資格者講習会が開催されました。本部より松本英樹宗匠、堀内紀彦先生をお迎えし、県内外より一四一名の資格者が参加しました。実技講習では「茶通箱」「薄茶」について細部にわたり丁寧なご指導をいただき、講義では〝利休居士の生涯〟や〝利休居士にまつわる道具〟について学びを深めました。参加された皆様は資格者とは

してひと言も聞き逃すまいと、真剣な眼差しで講習に臨んでおられました。

翌二十日(日)は支部総会と一般講習会が行われました。支部総会では最初に物故者への黙祷があり、その後叵寿表彰と支部特別功労者表彰の報告がされ、松本宗匠より当日ご出席の三人の叵寿の方々に御家元からのお祝いの品が渡されました。叵寿表彰者は芦澤すま子氏、渡邉二三子氏、網倉千恵子氏、山田美惠子氏、中林はま子氏、入月富美江氏、秋山英世氏の7名。支部特別功労者表彰は菊池康久氏でした。議事は野口支部長による進行のもと、全ての議案が承認されるなど滞りなく進み、総会は閉会しました。

松本宗匠による「了々斎」についての講話では、十九才の時に表千家の養子となった了々斎がどのように表千家と関わりを持っていかれたのか歴史をひもとく話から始まり、了々斎が残した道具にまつわる話や紀州の殿様とのやりとりなど興味深い内容が続きました。

午後からは後座の勉強として「濃茶」「後炭」「薄茶(替茶碗)」の実技が行われ、多くの学びがありました。後炭は風炉の中の状態が釜を上げてみないとわからないため、初炭より応用力が必要となることや、濃茶では飲みまわしの意義など多岐にわたり、改めて基本の大切さを感じました。

薄茶は堀内先生による指導で替茶碗でのお点前を勉強しました。先生の理論的な説明はあらためて実感できるものでした。

一日を終えて帰りに向かう会員の皆様からは「とても実りある時間を過ごせました」という声があり、その表情は充足感に満ちていました。

叵寿表彰者の皆さんを囲んで　左から古川老師、野口支部長、表彰された中林はま子氏、秋山英世氏、入月富美江氏、松本宗匠、堀内先生

野口支部長による議事進行

替茶碗での「薄茶」

「後炭」

支部茶会

令和六年十一月二十四日(日)、鉄道王と称され、日本の近代化に影響を与えた初代根津嘉一郎の実家である根津記念館にて支部茶会が開催されました。

青山荘では支部事務長笠井公巳幹事、主屋では学校茶道(山梨大学表千家茶道部、山梨県立大学表千家茶道部)が席を担当しました。

秋晴れのなか、大勢のお客様が参加され、根津記念館の紅葉とともに茶会を楽しみました。

幹事席

◇幹事席

青山荘

会記

寄付掛物　猶有斎自筆　富士の画　賛千歳
本席掛物　而妙斎筆一行　楓葉経霜紅
花入　竹　一重　銘苦楽
花　季のもの
香合　粒菊白粉解　小庵好の形を以て
全国大会福島大会記念
釜　亀甲
炉縁　惺斎好　鱗鶴蒔絵　黒カキ合せ
風炉先　腰金地　兼中斎自筆松の画
ツボツボ透爪溜二重棚　好
水指　高取　掛分　銘松風
茶器　内朱　金砂子　黒大棗
茶碗　黒　雲錦　銘養老
替
茶杓　而妙斎自作　銘千年翠
建水　唐銅　エフゴ
蓋置　青つくね
食籠　朱丸　鱗鶴蒔絵
菓子　きんとん　山しぐれ
茶　猶有斎好　友久の白
莨盆　青漆　舟形
火入　今戸焼　花唐草　好
煙管　如心斎好筋
莨入　独楽塗

共箱
兼中斎書付　竹斎作
十四代浄中作　清右衛門極
即中斎書付　利斎作
兼中斎書付
而妙斎書付
即中斎書付　味楽作
即中斎好書付　一閑作
即中斎書付　道年作
而妙斎箱書付　永楽造
共筒共箱
浄益作
惺入作
即中斎箱書付　近左作
而妙斎書付　松野屋製
小山園詰
而妙斎書付
惺斎箱書付　半七作
浄益作
近左作

学校茶道席

◇学校茶道席

旧主屋

会記

掛物　恵林寺古川妙機筆　彩鳳舞丹霄
花入　春日大社形　根来塗瓶子
花　白菊
香合　あかいお家
釜　甑口天猫
炉縁　竹
平戸焼皆具宝尽し浮彫
火箸　芋頭
茶器　宮崎曲茶器　ウルシ絵
茶杓　松　菊唐草蒔絵　銘祥雲
菓子器　不審菴形　松摺漆盆
菓子　菊上用

清右衛門極
逸外老師書付
尋牛斎箱書付
浄心作
而妙斎共筒共箱
而妙斎書付　近左作
三省堂製

学校茶道紹介

二校の取り組みを紹介します。

◇田富南小学校茶道体験教室

令和六年三月六日(水)、前日降った春の名残雪もある中、中央市立田富南小学校の五年生二十一名を対象に茶道体験教室を開きました。茶道を通じて日本の伝統文化への理解を深めてもらおうと小学校からの依頼に応えて、支部役員が講師を務めました。前半はお茶の歴史や茶道具のことを話し、後半は二チームに分かれて、客側と亭主側それぞれを体験してもらいました。客は畳の歩き方や菓子とお茶のいただき方、そして亭主側は実際にお茶を点ててもらいました。初めての体験に、児童の皆さんのきらきらした目がとても印象的でした。

緊張しながら初めて点てる一服

家に畳の部屋がないという児童もいる昨今、授業最後の質疑応答では「どうして畳の縁を踏んではいけないのか」「表千家と裏千家の違いは何ですか?」など素直な質問が上がり、皆で理解を深めることができました。この日の体験を入口にして未来の茶人がひとりでも生まれてくれたら、とほのかな期待を胸に小学校を後にしました。

◇日川高校国際交流茶会

日川高校茶道部は、八名と少人数ながらも、佐久間由紀子先生のご指導のもと、和気あいあいと楽しくお稽古に励んでいます。令和六年七月には、地元山梨市からの依頼を受け、根津記念館にて紅富士太鼓ネパール支部から来県された方々への呈茶を行いました。普段は立礼式でお稽古をしているため、この日のために和室席でのお点前の練習を行いました。また、茶室の設えやお道具、マナーなどは英語を交えて説明をしようと、生徒たちと英語の原稿を考え、所作に合わせて説明ができるように練習を重ねました。当日は、梅雨明け間近の暑い日でしたが、気持ちの良い風が通る茶室で和やかなお茶会となりました。英語での説明も大変興味を持って聞いていただき、呈茶が終わったあとも質問が絶えず、佐久間先生に助けていただきながら歓談を楽しみました。三年生はこのお茶会をもって引退となりました。茶道を通して身につけたおもてなしの心で国際交流ができたことは、よい思い出となることでしょう。

(日川高校茶道部顧問　伊東弘美)

日川高校茶道部

令和７年度　支部行事予定

4月5日(土)・6日(日)

信玄公祭り呈茶

甲府駅北口　ペデストリアンデッキ

5月28日(水)

山梨県 長野県 教授者講習会

甲府常磐ホテル

講師　小笹 晃宗匠　堀内 紀彦先生

教本　「風炉」

実技　「炭点前、続薄茶」

6月8日(日)・22日(日)

第7回 茶の湯文化にふれる体験学習

茶道体験ワークショップ

山梨県立文学館・素心菴

9月29日(月)

第4回 恵林寺献茶式

乾徳山恵林寺

御奉仕　猶有斎 千宗左宗匠

10月12日(日)

やまなし県民文化祭大茶会　ぴゅあ総合

10月18日(土)

資格者講習会

山梨県立文学館

講師　菅田 浩行宗匠

実技　「初炭」「茶カブキ」

当日配布する資料の解説

10月19日(日)

支部総会・一般講習会

山梨県立文学館

講師　菅田 浩行宗匠

講話　「惺斎の話」

実技　「花所望」「長緒」「薄茶」

12月14日(日)

支部茶会(2席)　山梨市・根津記念館

令和8年4月19日(日)　第16回 身延山久遠寺献茶式

＊各茶券や参加のお申し込み・お問合せは、下記「お問合せ先」まで

編集後記

今号は令和6年度に行われた行事を中心に紹介しました。一年分の行事ですので盛りだくさんになりましたが、お楽しみいただけましたか?

編集の都合で、3月23日(日)開催の身延山茶会の様子が掲載できませんでしたが、しだれ桜のもと500名の参拝者にお茶とお菓子を楽しんでいただきました。

支部主催の市民講座や体験学習、講習会、茶会は勿論、学校茶道に関しては各学校茶道部の取り組みや学校からの依頼にお答えしての体験教室など、会員の皆さまが普段目にすることのない活動にも焦点を当てました。多くの方に支部活動を知っていただき、このような取り組みをご一緒に展開していくことができましたら、大変うれしく思います。

今年度は9月に御家元をお迎えして恵林寺献茶式を、来年度4月には身延山久遠寺献茶式を予定しております。多くの会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

表千家ホームページ リニューアルのお知らせ

この4月から表千家同門会のホームページがより情報を加え、新しく生まれ変わります。各支部の紹介ページを増設し、全国の支部の行事を知ることができるようになります。どうぞご活用ください。

https://www.omotesenke.jp

お問合せ先

表千家同門会山梨県支部(支部事務所)
〒400－0021 甲府市宮前町6-3　笠井　公巳 方　TEL 070－2902－2318